



考え、表現する喜びをもとに自ら学びに向かう生徒の育成 ～学習の調整に視点をあてた意見交流を通して～

①授業の工夫・改善

○学習の調整（自らの学習状況を把握〈自己分析〉し、学習の進め方について試行錯誤しながら学ぼうとする意思的な側面）に視点をあてた意見交流の実践

【意見交流を通して学習の調整を図れるような単元構想を考え、その様子をどのような方法で見取ればいいのかという評価の検討を行っていきます。】



- ★「何をできるようにしたいのか」という明確な目標を意識させた意見交流
- ★「何ができるようになったのか」という学習状況を把握する機能を含めた意見交流
- ★基礎的・基本的な知識、技能を「自分ならどうするか」「自分自身のこれからにどう生かすか」という現実的な視点で捉え直し、使える段階まで引き上げるための意見交流
- ★ICT機器を効果的に活用した意見交流 などを実践していきます。

②自律した集団づくり

○学年一体の道徳授業により、考え、議論する時間を確保します。また、学級活動では、自分たちで課題を考え、解決するために必要なことを議論し、決まったことを実践する機会を与えていきます。実践を振り返ることで、よりよく生活するために必要な力を身に付けるとともに心の成長を実感出来るようにしていきます。

- ★「道徳ノート」に自分が考えたことや感じたことを記述し、3年間蓄積することで自分自身の心の有り様を確認できるようにするとともに評価にも生かしていきます。



③家庭学習の充実

○家庭での時間の使い方について考えさせるとともに、身に付く「自主学習ノート」（ペガサスノート）への取り組みを呼びかけ、効果的な取り組み方を追究していきます。

- ★生活計画表や学習計画表を活用して時間の使い方を明確にし、学習時間を確保します。
- ★工夫し、身に付く「自主学習ノート」の賞賛や他の生徒への積極的な実践紹介を行い、生徒が主体的に復習したり発展的な学習をしたりすることができるようにします。

